

第1部 学校での神話教育

1 育鵬社中学校歴史教科書の神話

- ・日本の神々の物語（p 50）

わが国に現存する最古の歴史書とされる『古事記』『日本書紀』（まとめて記紀ともいう）は、神々の物語から始まります。

記紀によれば、日本列島をつくったのは、イザナギ、イザナミという男女の神でした。雲の上から長い矛で海をかきまぜ、したたり落ちたしずくで淤能碁呂島という島ができると、この島を拠点に本州や四国など、8つの島々を次々に生んだといわれています。このため、わが国は「大八洲国」とも呼ばれました。

イザナギの子が天照大神とスサノオノミコトです。天照大神は太陽の女神であり、神々の中心として伊勢神宮にまつられています。・・・

- ・三種の神器と神武天皇（p 50～51）

一方、天照大御神は、その孫ニニギノミコトを地上につかわし、この地を治めるように命じました。このとき天照大神はニニギに、八咫鏡（鏡）、八咫瓊勾玉（宝石）、草薙剣（剣）を与えたといわれています。これらは「三種の神器」とよばれ、天皇が即位するとき代々受けつがれることになっています。

ニニギノミコトがお供の神々を引き連れて降り立ったのは、日向の高千穂でした。以後しばらくここで暮らしましたが、3代目（半沢注：実は4代目）に当たるカムヤマトイワレヒコノミコトのころになると、国を治める中心としてふさわしい地を求め部下とともに船出することになりました。めざしたのは大和（奈良県）でした。

多くの豪族を説き伏せたり、その地の神をともにまつったり、また時には激しい戦いをくり返しながらか、一行は大和にたどりつきました。こうしてカムヤマトイワレヒコノミコトは畝傍山のふもとの橿原で即位し、初代神武天皇になるという物語です。なお2月11日の「建国記念の日」は、神武天皇が即位したとされる日を記念したものです。

- ・伝説の英雄が活躍する神話（p 51）

また、国を統一するのに大きな役割を果たしたのが、ヤマトタケルノミコト（日本武尊）です。第12代景行天皇の皇子・ヤマトタケルは、軍勢を率いて九州や出雲、関東に遠征し、大和の勢力を大いに広げました。しかし、都に帰る途中で病にたおれ、伊勢国（三重県）の能煩野で亡くなりました。ヤマトタケルの伝説は各地に残り、「三重」「焼津」「東の国」など、今日に残る地名のいわれともなっています。・・・

神話に書かれていることは、歴史の事実そのものとはいえませんが、当時の人々の、日本の国の成り立ちについての解釈や生活のようす、ものの考え方、感じ方を知るうえで貴重な

手がかりとなっています。

2 育鵬社背後の日本会議

・敗戦（1945）前の日本国民は、大日本帝国憲法（1889）によって記紀神話を疑うことは禁止され（第三条：天皇は神聖ニシテ侵スベカラズ）、教育勅語（1890）によって神の子孫である天皇のために死ななければならないとされていた。

・教育勅語の核心

「一旦（いったん）緩急（かんきゅう）あれば義勇（ぎゆう）公（こう）に奉じ以て天壤無窮（てんじょうむきゅう）の皇運（こううん）を扶翼すべし」とは「戦争など国家の大事があれば、神の子孫である天皇のために喜んで戦って死ぬ」ということである。

・教育勅語の根拠は記紀神話

因りて、皇孫に勅してのたまわく、「葦原の千五百秋の瑞穂の国は、是、吾が子孫の王たるべき地なり。爾皇孫、就でまして治せ。・・・宝祚の隆えまさむこと、當に天壤と窮り無けむ」とのたまふ。『日本書紀』天孫降臨段・第二「一書」

・人間はみな猿の子孫だから天皇が神の子孫という記紀神話は嘘である。（念のため）

・日本会議とは何か

神社本庁など残存国家神道勢力を、70年代に生長の家学生運動に関わっていた活動家（梶島有三、伊藤哲夫、衛藤晟一、高橋史郎、百地章）がコアになり形成した（1997）、国家神道復活を妄想する秘密主義カルト統一戦線。

・安倍内閣・日本会議・育鵬社教科書の一体性

1997、「新しい歴史教科書をつくる会」の扶桑社教科書採択運動。2006、「新しい歴史教科書をつくる会」が藤岡信勝派と日本会議派に分裂。2007、安倍晋三がフジ・メディア・ホールディングス会長・日枝久に口利きして、フジ・メディア・ホールディングスが100%出資する育鵬社が、教科書を発行するだけを目的として発足。

・前川喜平前文科省事務次官

今この道徳教育を進めようとしている政治家たちの基本的な考え方は教育勅語です。そういう人たちが権力を握ってしまったので非常にあぶないと思っているんです。（山田洋二映画監督との対談）

3 小6社会科教科書の神話

・学習指導要領2017小6社会

神話・伝承を手掛かりに、国の形成に関する考え方などに関心を持つこと。『神話・伝承』については、古事記、日本書紀、風土記などの中から適切なものを取り上げること。

・東京書籍小6社会科教科書

8世紀ごろ、「古事記」や「日本書紀」といった書物が天皇の命令でつくられました。これらには、大昔のこととして、天からこの国土に下った神々の子孫が、大和地方に入って国

をつくり、やがて日本の各地を統一していった話などがのっています。

・・・

ヤマトタケルノミコトは、武勇にすぐれた皇子でした。ヤマトタケルは天皇の命令を受けて、九州へ行ってクマソを平らげ、休む間もなく、東日本のエミシをたおしました。ヤマトタケルは、広い野原で焼きうちにあったり、あれる海とたたかったりして、苦勞しながら征服をすすめました。ところが、都へ帰る途中、病気でなくなっていました。すると、ヤマトタケルのたましいは、大きな白鳥に生まれ変わって、都の方へ飛んでいきました。

・教育出版小6 社会科教科書

天皇中心の国のしくみが整った8世紀の初め、朝廷は、国の成り立ちを国の内外に示すため、「古事記」や「日本書紀」という歴史の本を完成させました。この中にはヤマトタケルの話のように、国が統一されていく物語も収められています。これは神話といわれ、すべてが真実ではありませんが、国の成り立ちや、この時代の人々の考えを知る手がかりになります。

・・・

ヤマトタケルは、天皇である父の命令で九州におもむき、クマソをうちとりました。次に関東のエミシを従えるように命じられました。ヤマトタケルは、その途中で、広い野原で焼きうちにあったり、荒れる海とたたかったりするような困難にあいながらも、関東を征服しました。しかし、その帰り道に、病気でなくなっていました。ヤマトタケルは、大きな白い鳥になって、大和の方へ飛んでいったということです。

・日本文教出版小6 社会科教科書

わたしたちが、4世紀から5世紀ごろのようすを知ろうとするとき、8世紀初めにつくられた『古事記』という書物のなかの、神話も手がかりになります。

・・・

昔、ヤマトタケルノミコトという武勇にすぐれた皇子がいました、皇子は、朝廷に従わない豪族を討てという天皇の命令を受けました。皇子は、苦勞しながら各地の豪族をたおしていきました。しかし、都へ帰るとちゅうで病気になり、都がある大和の美しい景色を思い浮かべながら、短い一生を終えたということです。

4 差別が野放しになる神話

・神話とは古代の伝承であり、「すべての人間は、生まれながらにして自由であり、かつ、尊厳と権利において平等である」(世界人権宣言第1条)という人権思想以前の物語である。したがって人権を無視した差別は野放しとなっている。

・イザナギ・イザナミ国生み神話の女性・障がい者差別

伊邪那美命、先に「あなにやし、えをとこを。」と言ひ、後に伊邪那岐命、「あなにやし、えをとめを。」と言ひ、各々言ひ竟へし後、その妹に告げたまひしく、「女人先に言へるは良からず。」とつげたまひき。然れどもくみどに興して生める子は、水蛭子。この子は葦船に

入れて流しき。岩波文庫『古事記』

・このまま子どもに丸投げ？（東京書籍教科書）

ヤマトタケルノミコトは、武勇にすぐれた皇子でした。ヤマトタケルは天皇の命令を受けて、九州へ行ってクマソを平らげ、休む間もなく、東日本のエミシをたおしました。ヤマトタケルは、広い野原で焼きうちにあたり、あれる海とたたかたりして、苦勞しながら征服をすすめました。ところが、都へ帰る途中、病気でなくなりました。すると、ヤマトタケルのたましいは、大きな白鳥に生まれ変わって、都の方へ飛んでいきました。

・ヤマトタケル神話には女性差別の極ともいえる弟橘姫入水神話もある。また記紀にはヤマトタケルの子の第14代仲哀天皇の妻・神功皇后が朝鮮諸国を臣下にしたという神功皇后神話もある。神功皇后神話は戦前の教科書に載せられ日本人が朝鮮を植民地支配することの道徳的正当化に利用された。

・『創世記』より：女性への呪い

神（ヤハウエ）は女（イブ）に向かっていわれた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は苦しんで子を産む。お前は男を求め彼はお前を支配する」

・『レビ記』より：LGBT問題外

女と寝るように男と寝る者は、両者共にいとうべきことをしたのであり、必ず死刑に処せられる。彼らの行為は死罪に当たる。

・人権思想の濫觴・ロック『統治二論』（1690）の四苦八苦

『創世記』第三章一六節において、神は、・・・共通のことがらを秩序づけるためにより弱い性の従属を予言しはしたが、・・・生殺与奪の権力を授与しなかったとすれば・・・人間は、生まれながらの自由をもつということになる。

・神話が終わった処から人権が始まる。

第2部 記紀神話の虚構性

・少しでもまともな教科書を選ぶのも大事なことだが、それだけでは済まないことも現実だ。どうすれば良いのか？市民・教職員の見識を日本会議以上にするしかない。

5 ヤマトタケルと東北の前方後円墳

・ヤマトタケル神話によればヤマトタケルの遠征は関東までだった。ところが福島県会津若松市の会津大塚山古墳や、宮城県名取市の雷神山古墳など4世紀の前方後円墳が、ヤマトタケル神話ではなかったと思われた東北にも築かれていたことが明らかになった。8世紀に律令国家が蝦夷と戦った多賀城の北にさえも4世紀の前方後円墳が築かれていた。つまりヤマトタケル神話が歴史から大きく乖離していたことを東北の前方後円墳は語ってやまないものである。

・参考書：甘粕健・春日真実編『東日本の古墳の出現』山川出版社1994、辻秀人『東北古墳研究の原点 会津大塚山古墳』新泉社2006。

6 神武天皇と前方後円墳の起源

・ 誉田山古墳（現応神天皇陵）墳丘長420mや大山古墳（現仁徳天皇陵）墳丘長486mといった古墳の想定被葬者が記紀天皇系譜「神武（初代天皇）⇒綏靖⇒安寧⇒懿徳⇒孝昭⇒孝安⇒孝霊⇒孝元⇒開化⇒崇神⇒垂仁⇒景行⇒成務⇒仲哀⇒**応神**⇒**仁徳**⇒履中⇒反正⇒允恭⇒安康⇒雄略⇒清寧⇒顕宗⇒仁賢⇒武烈⇒継体⇒安閑⇒宣下⇒欽明⇒敏達⇒用明⇒崇峻⇒推古」にカウントされ天皇家の威信の象徴になっていることから分かるように、記紀で「神武天皇」は前方後円墳王権の神話的始祖とされている。しかし前方後円墳王権の真の起源はどういうものだったのだろうか？

・ 最初の巨大前方後円墳は奈良県桜井市の箸中山古墳（墳丘長286m、3c後半）だが、その源流となったのは岡山県倉敷市の楯築弥生墳丘墓（墳丘長約80m、2c～3cの変わり目）だった。倉敷市楯築墳丘墓の特殊器台が円筒埴輪の原型となっており、箸中山から宮山型特殊器台が出土していることなどから、箸中山の被葬者は吉備の王者と考えられる。東日本の多くの出現期古墳から東海のパレス壺が出土していることなどから、前方後円墳王権は吉備や東海の連合王権として成立したと思われる。

・ 参考書：近藤義郎『前方後円墳の起源を考える』青木書店2005

・ 「神武天皇」虚構の証明

①「神武天皇」は九州から大和へ東征し、前方後円墳王権の始祖となったと『古事記』『日本書紀』はいう。

②しかし前方後円墳王権は、弥生時代終末期の有力共同体の連合王権として成立したことは、考古学的に確実である。

③したがって、前方後円墳王権の始まりを単純な武力征伐の結果とする「神武天皇」神話は虚構であり、虚構の神話の主人公である「神武天皇」もまた虚構である。

・ 「神武天皇」の虚構はアダムとイブ（創世記）の虚構と同じこと

アダムとイブは人類の始祖、最初の人間とされている。それは、人類が猿から徐々に進化したという進化論に矛盾する。したがってアダムとイブは架空の人物である。同様に、神武天皇は九州から出発して大和を征服し、前方後円墳王権の遠祖となった人物とされている。それは前方後円墳王権が吉備や東海の連合王権として始まったという考古学の知見に矛盾する。したがって神武天皇は架空の人物である。

7 玄孫と結婚した景行天皇

・ なぜか誰も論じない『古事記』の部分

景行天皇記冒頭の景行天皇后妃皇子女部分（岩波文庫『古事記』p130～131）

大帯日子淤斯呂和気天皇・・・針間の伊那毘能大郎女を娶して生みませる御子・・・小碓命（倭建命）・・・また倭建命の曾孫・・・訶具漏比賣を娶して生みませる御子、大枝王。

景行天皇記末尾の倭建命子孫系譜（岩波文庫『古事記』p145～147）の

倭建命・・・弟橘比賣を娶して生みませる御子、若建王。・・・若建王、飯野眞黒比賣を娶して生める子、須賣伊呂大中日子王。この王・・・柴野比賣を娶して生める子、迦具呂比賣命。故、大帯日子天皇、この迦具呂比賣命を娶して生みませる子、大江王。

・つまり景行天皇は子であるヤマトタケルの曾孫、すなわち自分の玄孫と結婚して子を産ませたと『古事記』は二カ所にわたって言っている。

・本居宣長『古事記伝』伝への紛れにて、実には無かりしこととこそ思はるれ

・天皇系譜がこの時点、すなわち天武と稗田阿礼が『古事記』草稿を起案した時点で、さまざまな氏族の伝承をつなぎ合わせるにより創出されたことを物語っているのではないか？

8 アフリカにまであった海幸山幸神話

・海幸山幸神話

天孫降臨したニニギノミコトの子・ヒコホホデミ＝山幸が、兄・海幸の釣り針を亡くし兄に責められるまま海中に探しに行く。そこで海神の娘・豊玉姫と出会い結婚する。山幸は海神の救いで亡くした釣り針を見つけ戻って兄を服属させる。その後、山幸は出産を覗くなどといった豊玉姫の願いを破り豊玉姫が鮫であったことを知る。怒った豊玉姫は海に帰り、生まれたウガヤフキアエズノミコトは自分を育ててくれた豊玉姫の妹・玉依姫と結婚して神武天皇を生む。

・亡くした釣り針を探しに行く神話が環太平洋領域に広がっていたことは前世紀前半から知られていたが、釣り針に限らなければ「亡くした道具」を異界に取りに行く神話はより広い領域にまで広がっていたことが現在では分かっている。特にアフリカにまで類似の神話は残っていた。

・ガーナのンゼマ族の神話

ある男が湖のワニを隣人から借りた槍で獲っていた。ところが巨大なワニは槍を打ち込まれたまま逃げてしまう。隣人に責められ男は湖中に槍を探しに行き、湖中の町で歓待され、そこでの大将だった巨大ワニから槍を返され土産の宝と共に陸地に戻る。

・参考書：後藤明『世界神話学入門』講談社現代新書2017

・類似した神話が世界中に分布する事実は、その神話の原型はホモサピエンスが先史時代から語っていたものであり、ホモサピエンスがアフリカから地球全体に拡散する過程でも語り継がれ、現在まで残存したことを物語っているのではなかろうか？

・人類の一員としての自覚を持たせず日本に引きこもらせるための神話教育であったはずだが、神話には人類の一体性を確認させる要素もあった。